

沿革 | 畜産研究所

昭和27年度	東根市一本木に総合種畜場開設（既存の最上種畜場並びに置賜種畜場は廃止）
昭和32年度	家畜人工授精施設が完成し、県内一円に精液の供給を開始
昭和41年度	豚産肉能力検定施設が完成。山形県畜産試験場（8係制）となる
昭和47年度	東根市大字沼沢地内に444,113㎡を買収、放牧試験地を設置 豚産肉能力検定業務を中小家畜分場に移す
昭和50年度	肉用牛間接法産肉能力検定事業を開始する
昭和51年度	中小家畜分場が養豚試験場として独立（養豚部門は養豚試験場、養鶏部門は畜産試験場所管となる）。 優良乳用種雄牛後代検定推進事業を開始する
昭和60年度	受精卵移植による子牛を県内で初めて生産（計5頭、うち2頭は双子）
昭和62年度	主管課が畜産課となる（旧主管課：農業技術課）
昭和63年度	体外受精卵移植による子牛生産に成功。 畜産試験場移転地が新庄市（県立農業大学校周辺）に決定
平成2年度	高品質肉用鶏（仮称：山畜鶏1号）の作出に成功
平成4年度	山畜鶏1号の正式名称が「出羽路どり」と命名される。 畜産試験場移転地（新庄市鳥越）の土地基盤整備完了。 副場長2名、研究主幹2名体制になる
平成5年度	アメリカ・カナダからスーパーカウ3頭導入。 畜産試験場新築工事が始まる
平成6年度	アメリカ・カナダからスーパーカウ3頭導入
平成7年度	畜産試験場の完成（新庄市）及び移転。畜産研修所廃止。1課1室4部体制となり、技術開発企画室が企画情報室となる。
平成9年度	県産種雄牛第1号「貴平3」デビュー 山形県農業研究研修センター畜産研究部（1室4科制）となり、副総長（畜産担当）職及び部長職が新設された。同時に、企画情報室が情報管理室となる。クローン牛誕生（4月、11月）。 主管課が農業技術課となる（旧主管課：畜産課）
平成11年度	草地研究科が草地環境科となる
平成13年度	情報管理室が企画情報室となる。 県産種雄牛「安鶴165」「安秀165」デビュー
平成14年度	企画情報室廃止となり、4科制になる。 県産種雄牛「北景茂」デビュー
平成16年度	県産種雄牛「平安菊」デビュー 赤笹シャモを交配した新しい肉用鶏「やまがた地鶏」誕生
平成17年度	山形県農業総合研究センター畜産試験場となり、総務課、家畜改良科、飼養管理科、草地環境科の体制となる
平成19年度	県産種雄牛「徳次郎」「平忠勝」デビュー
平成21年度	県産種雄牛「景勝21」デビュー
平成23年度	総務課、家畜改良部、飼養管理部、草地環境部の体制となる
平成24年度	増体改良型の新しい「やまがた地鶏」誕生

平成 26 年度	県産種雄牛「貴福久」、「満開 1」デビュー
平成 29 年度	県産種雄牛「幸花久」、「神安平」デビュー 第 11 回全国和牛能力共進会若雄の部で県産候補種雄牛「翼」 号が優等賞獲得
令和元年度	県産種雄牛「福福照」デビュー 高いゲノミック評価が期待される輸入受精卵導入 「YLES ソングバード トパーズ スー ET」誕生 O P U（生体卵子吸引技術）器機導入
令和 2 年度	山形県農業総合研究センター畜産研究所と改称 県産種雄牛「冬景 2 1」、「美結喜」デビュー ゲノミック評価済み輸入受精卵産子 「YLES ザズル Mホープ ET」など 4 頭誕生
令和 3 年度	県産種雄牛「平忠勝」令和 3 年 1 月 3 日老衰のため死亡 県産種雄牛「翼満開」デビュー 輸入受精卵産子由来受精卵を県内酪農家等へ販売開始。この中 の第 1 号として白鷹町内の酪農家において 3 月 22 日雌牛が 誕生し、翌 23 日に第 2 号の雌子牛が誕生
令和 4 年度	県産種雄牛「幸紀陸」、「美勝喜」デビュー 県内酪農家等へ販売したプレミアム受精卵から 7 頭の雌子牛が 誕生 乳用牛 2 頭が優秀検定雌牛受賞（生涯乳量 5 万キロ以上且つ体 型得点 85 点以上） 和牛における OPU-IVF 技術を活用した高能力繁殖雌牛の生産 実証を開始
令和 5 年度	第 12 回全国和牛能力共進会（鹿児島）若雄の部で県産候補種 雄牛「幸彦星」号が優等賞獲得 県産種雄牛「福秀 1 6 5」デビュー 県内酪農家等へ販売したプレミアム受精卵由来の乳用雌子牛の うち 1 頭がゲノミック評価で日本一になる。
令和 6 年度	県産種雄牛「丸藤 3」デビュー
令和 7 年度	県産種雄牛「七福久」デビュー